

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名		令和7年度松阪市健康づくり推進協議会
2. 開 催 日 時		令和7年7月31日(木) 午後1時 30 分～午後2時45分
3. 開 催 場 所		松阪市春日町一丁目19番地 松阪市健康センターはるる 3 階 健康増進室
4. 出席者氏名	委 員	平岡直人(会長)、岩瀬晃子、小泉かつ子、駒田聡子、森優太、大西学
	顧問	堀康太郎
	事務局	【健康づくり課】 健康づくり課 課長 田島栄子、 保健師統括担当監 大西郁子、保健担当監 西口裕登、 保健予防担当主幹 橋本嘉寿子、保健予防担当主幹 蒲原豊子 保健予防係係長 加藤裕子、地域医療係係長 大北晋也 保健予防係主任 安保順子、保健予防係主任 辻原幸枝、 保健予防係主任 宇野希恵、保健予防係 中西麻結子 【各地域振興局】(オンライン) 嬉野地域振興局地域住民課 課長 高口直記、主幹 山崎千恵子 三雲地域振興局地域住民課課長 野口友美 飯南地域振興局地域住民課課長 鈴木由紀子 飯高地域振興局地域住民課課長 池田朱美、担当監 上阪伸子
5. 公開及び非公開		公開
6. 傍 聴 者 数		なし
7. 担 当		松阪市健康福祉部健康づくり課 TEL 0598-31-1212 FAX 0598-26-0201 e-mail ken.div@city.matsusaka.mie.jp

事項

1. 挨拶

2. 協議事項

(1)令和6年度健康づくり推進事業実績報告について

(2)令和7年度健康づくり事業実施計画について

議事録 別紙

令和7年度松阪市健康づくり推進協議会議事録

日 時:令和7年7月31日(木)13:30～14:45

場 所:健康センターはるる3階 健康増進室

出席者:【委員】(順不同、敬称略)

松阪地区医師会 平岡 直人(会長)、松阪地区薬剤師会 岩瀬晃子、
松阪市食生活改善推進協議会 小泉かつ子、皇学館大学教育学部 駒田聡子、
三重県理学療法士会 森優太、松阪市健康福祉部 大西学

【顧問】

松阪保健所 堀康太郎

【事務局】

健康づくり課 課長 田島栄子、
保健師統括担当監 大西郁子、保健担当監 西口裕登、
保健予防担当主幹 橋本嘉寿子、保健予防担当主幹 蒲原豊子
保健予防係係長 加藤裕子、地域医療係係長 大北晋也、
保健予防係主任 安保順子、保健予防係主任 辻原幸枝、
保健予防係主任 宇野希恵、保健予防係 中西麻結子

【各地域振興局】(オンライン)

嬉野地域振興局地域住民課 課長 高口直記、主幹 山崎千恵子
三雲地域振興局地域住民課課長 野口友美
飯南地域振興局地域住民課課長 鈴木由紀子
飯高地域振興局地域住民課課長 池田朱美、担当監 上阪伸子

欠席者:【委員】

松阪地区歯科医師会 西村充功、松阪商工会議所 岸江伸浩、
松阪市小中学校長会 松澤和美

傍聴者:1名

配布資料:

- ・ 事項書
- ・ 令和7年度松阪市健康づくり推進協議会委員名簿
- ・ 資料1 令和7年度松阪市健康づくり推進事業 冊子
- ・ 資料2 第3次松阪市健康づくり計画 冊子
- ・ 資料3 第3次松阪市健康づくり計画 ダイジェスト
- ・ 資料4 第3次松阪市健康づくり計画モニタリング指標一覧

- ・ 資料5 松阪市保健統計報告書
- ・ 資料6 松阪市健康カルテ
- ・ 資料7 健康応援プロジェクト'25 ちらし
- ・ 資料8 令和7年度春夏 はるる健康講座・イベントのご案内 ちらし
- ・ 資料9 松阪市健康マイレージ ちらし
- ・ 資料10 松阪を「歩こっ♪」ウォーキングキャンペーン ちらし
- ・ 資料11 松阪市若年がん患者在宅支援事業のご案内 ちらし
- ・ 資料12 がん治療を受けている方へ ウィッグと乳房補助具などの購入費用を助成します ちらし

議事要旨：

1. 開会

審議会等会議の公開に関する指針及び運用方針、会議の公開基準に基づき、会議を公開するものとし、会議の状況を録音、会議録の公開を行うことを説明。資料の確認。委員の出席報告。（出席者：委員6名、顧問1名 欠席者：3名）

2. 会長挨拶

昨日、カムチャツカ半島でマグニチュード8.7という非常に大きな地震が発生。この地震に伴い、日本列島の主に太平洋沿岸に津波警報や注意報が発令され、三重県も南部では避難活動が行われた。今年の健康フェスティバルでは、「災害」に焦点を当てていく方針で話を進めている。具体的には、災害医療や避難所生活における体調管理、疾病予防などが重要なテーマとなる。これらは日頃からの健康づくり推進事業が基礎となっており、とても大切な取り組みである。

3. 協議事項

(1) 令和6年度健康づくり推進事業実績報告について

【事務局より、令和7年度松阪市健康づくり推進事業冊子に基づき「令和6年度健康づくり推進事業実績」を報告】

○会長

講座や指導に関してですが、参加人数が数字として示されてはいるものの、実感はどうか。数字からは見えにくい現場での印象を教えてください。また、市民が特に熱心に聞いてくださるテーマや、逆に関心を持ちづらいテーマについても、現場からの率直な意見を教えてください。

○事務局

健康に関心のある方々は、さまざまな事業に積極的に参加していただいている。しかし、一方で健康に無関心な方々を取り込むことが課題。そのような層への参加促進には苦勞しているのが現状である。そのため、無関心な方々にも情報が届くように、ウェブやオンラインツールの活用、ホームページを工夫するなど、情報発信の取り組みを進めている。

○会長

その取り組みの中で新しい取り組みや上手くいった取り組みはあるか。

○事務局

市総合アプリ「松ナビ」を活用した情報発信を行った結果、申し込み件数が増加する成果が得られた。従来の広報紙のみでは届きにくかった方々にも周知を図ることができ、より幅広い層に情報を届けるための新しい方法として取り組みを進めている。今後も工夫を重ねながら、効果的な周知方法を模索していく。

○会長

ピロリ菌陽性率がやや少ない印象。一次検査で陽性となった方が、二次検査で陰性になるケースが一定数見られる。二次検査で偽陰性になっている人がいないか少し心配。一次検査の感度がそれほど高くない可能性があるため、二次検査での結果を再確認した後に除菌治療を行っている。二次検査が偽陰性となり、ピロリ菌が陽性である人を見逃してしまうとこれが将来的に問題につながる可能性もある。この点については、検診を受ける際に、検査が必ずしも100%正確ではないことを事前に説明し、理解していただいた上で実施している。2次検査の偽陰性が、少し課題となる可能性があるのではないかな。

検診の実施率は、今年は昨年度より少し少なかった。初期には手挙げ方式で低い実施率でしたが、現在は手下げ方式に変更し、実施率の向上を図っているが昨年より若干低下している。今後も胃癌撲滅委員会を開催し対策を議論する予定。

(2) 令和7年度健康づくり推進事業実施計画について

【事務局より、令和6年度松阪市健康づくり推進事業冊子に基づき「令和6年度健康づくり推進事業実施計画について報告」

○顧問

令和6年度の特定保健指導について利用率が低いということだが、令和7年度は実施しないのか。特定保健指導の対象者は、個人事業主が多いのか。会社勤めの方だと企業の方

や職域で協力して実施することもできるが、個人事業主の方々を対象とすると確かに難しいところがあると思う。

○事務局

特定保健指導については、今年度も継続して実施する予定。利用率に関しては課題であると認識しており、参加者が増えるようインセンティブを設けたり、オンライン提供など工夫を進めている。ただし、申し込み数が伸び悩んでいる状況が続いている。

特定保健指導の対象者の国民健康保険加入者と健康増進法健康診査の対象者の生活保護受給者の方に対して特定保健指導を実施させていただいている。

○会長

がん検診も受診率が低い。特に男性の受診率が低い。日曜日でないと休めないような個人事業主がなかなか受診しないのではないかと。女性の乳癌・子宮頸癌検診は比較的受診率が高いものの、男性の受診率の改善には、検診日などそのあたりの工夫も必要。休日や祝日に検診ができるともう少し受診率が上がるのではないかと。

○顧問

健康づくりとして取り組むべきかどうかかわからないが、全国的にも世界中でも性病が増加している。学校、特に中高生への性教育では感染症対策としてワクチンに関する情報提供が中心となっているが、性病についての教育が非常に大事ではないか。性病に関する事業がない。健康づくり以外で実施されているのかわからないが、教えていただきたい。

○事務局

学校における性教育については、梅毒の感染拡大が深刻化している現状もあり、重要性を認識している。ただし、喫煙に関する教育は高校へ出向く形で取り組んでいるが、性病については学校側が進めていただいている。保健予防事業としての性病は現在実施していないのが実情。

○顧問

性病についての教育も取り組んで欲しい。養護教諭で難しい場合は、医師会に依頼するなども1つの方法ではないか。

○委員

薬剤師会では学校薬剤師が特定の学校に赴き、若者のオーバードーズについてスポット的

に講演を行っているが、松阪市全体で統一した取り組みを進めていただけるのであれば協力をさせていただきたい。オーバードーズ防止に関する教育は、小中学生の時期から始めることが重要である。そのような取り組みを検討いただきたい。

○委員

健康カルテにも記載されているが、健康寿命を延伸するために生活習慣病予防や重症化予防が重要であることが市民にどれだけ伝わっているのか。受診率が低い状況があるが、十分に生活習慣病予防の重要性が伝わらないと受診にもつながらない。

松阪市のフッ化物洗口については実施率も高く、教育という面ではフッ化物洗口を実施することで子どもたちが歯を大切にすることを意識を育むことができる。その一方で、食育のリーフレットについては配布されたものの、その内容が保護者や子どもたちにどの程度伝わっているのかが気になる。食は健康の基盤であり、乳幼児期から学童期の子どもたちへの適切なアプローチは、将来の健康や成長に繋がる。保護者や教育関係者への巻き込み方や意識付けが十分かどうかを検証しながら、単に冊子の配布や動画を作成するだけでなく、実際にどれだけ響いているのかを振り返り、検証する必要があるのではないかと。生活習慣病予防だけでなく、効果の検証や住民にどこまで伝わっているのか、またどうしたら効果的に伝わるのかを検証していただきたい。

○事務局

食育冊子の活用については、どのように活用したかの調査を行っている。幼稚園や保育園では担任の先生が子どもたちに寄り添いながら説明を行ったり、小学生の家庭科の授業では先生が野菜の重要性や食塩の摂り過ぎの危険性などを教えるために活用されている。

○委員

自治会や老人会などでラジオ体操などの自治会単位で健康づくりを行っているところもある。「自治会力」というのか、地域での取り組みは住民の健康を促進する大事な要素。こうした団体を巻き込み、協働して健康づくりを進める取り組みがあるか。

○事務局

自治会単位での活動についても地区ごとに取り組みの差はあるが、一緒に健康づくりの活動を行っている。

○委員

認知症対策については、身体を動かすことだけでなく、耳の聞こえの重性が指摘されてい

るが、その分野が取り上げられていないのが気になった。

○事務局

認知症対策は、主に高齢者支援課が中心となり、高齢者の認知症予防や早期発見に向けた取り組みを実施している。健康づくり課としても高齢者支援課と連携しながら、協働で事業を進めている。ただし、ご指摘いただいた「聞こえ」の問題については、今後の検討課題としていきたい。

○会長

生活習慣病対策については子どもの頃からの教育が重要であると改めて感じている。避難計画や災害医療の話題で「子どもを中心にした取り組みが地域全体のまとまりに繋がる」という事例を聞いた。健康面でも同様に、子どもが正しい知識を身につけることで、その子どもの将来だけでなく、家庭や地域にも繋がっていく効果が期待できるのではないかな。ピロリ菌に関しても、子どもが陽性であれば親も陽性である可能性が高い。ピロリ菌への正しい知識を子どもを中心に広めることで、その影響が大人にも波及すれば、胃がん検診の受診率の向上が期待できるのではないかな。さらに、正しい知識の普及によって「胃がん受診が必要ない人は受けなくてもよい」といった新しい発想へ繋がる可能性もある。意欲のある人は、特に働きかけがなくても進んで参加する。しかし、課題は意欲が低い人や興味を持っていない人たちをいかに掘り起こすかという点。この点において、先ほどのご指摘が非常に重要なポイントである。

○委員

食生活改善推進員として健康センターはると協力し、年間計画を立てながら地域でさまざまな取り組みを実施。各地区で夏休みの子どもの料理教室や親子で参加する料理教室等の取り組みを実施している。多くの子どもたちが楽しみながら一生懸命、包丁を使って料理をしてくれた。しかし、1回だけ終わってしまうのは非常に残念だと感じた。担当地区では、健康センターはるで研修した内容を地域の方に伝えているが、普段は主に60歳代以上の方が料理教室に参加している。子どもたちがもっと参加できる教室をできると良い。限られたメンバーで、現在の活動に加えて新たに子どもを対象とした教室を増やすとなると難しい部分もあるが、子どもの頃から料理の楽しさや健康への意識を育む場を作りたい。

○事務局

健康づくり課では、夏休みを利用して小学生とその親子を対象とした料理教室を実施。身近な学校給食を通じて食への興味を育み、その学びを家庭に持ち帰り、家庭での調理につ

なげることを目的としている。参加希望者が年々増加しており、回数を増やすなどの工夫を行っているが、今後はさらに春などにも教室を開催し、小学生の親子だけでなく、幼稚園・保育園の保護者も参加できる取り組みを検討していきたい。

○会長

ニーズもあり、非常に重要な事柄。予算措置等も考えていただいて、広げていただきたい。

○委員

3つ意見を提案させていただきたい。

1つ目。学童期の健康に関する課題については、運動に関しても近年小学生・中学生の方々を含めて運動不足が原因で生活習慣病の問題が増加している現状がある。昔は部活動に参加する子どもが多く、けがの予防が主な課題でしたが、現在は部活動をしない子どもも多く、生活習慣病の問題が増加。今年の事業計画にもYouTubeを活用した動画啓発やダンスなど多様なプログラムがあるので、これらを教育委員会や学校の体育教員と連携し、より拡充していくと効果的。小学生からの生活習慣がそのまま成人期の生活習慣病の進行に繋がる可能性がある。そのため、学童期から適切な生活習慣を身につけ、成人期の生活習慣病を予防するという視点も踏まえて取り組みを進めていただきたい。

2つ目、健康応援プロジェクトとして糖尿病予防に重点を置いた魅力的なプログラムの掲載を拝見した。健康カルテからもその背景には、HbA1cなど糖尿病のリスクが県内でも非常に高いという状況があるが、この課題に対して、各プログラムの効果を検証することが重要。特に、データ分析における三重大学との連携が強力な支援になると期待する。各プログラムがどのような効果をもたらしているのかをデータに基づいて明らかにし、その情報を市民に発信することで、参加意欲を高め、地域全体で自然に健康づくりができる環境をつくることにつながっていく。こうした検証も視野に入れながら取り組みを進めていただきたい。

最後に、災害時の健康管理について。昨年度、能登地震の際にリハビリの視点から避難所をサポートした経験から、実際に現場では、高齢者が身体を動かさずフレイルになる、若い方が暇を持て余し運動不足になるなど、さまざまな健康課題に直面した。運動や栄養について専門職や医師が健康課題に対してアプローチを行ったが、特に重要だと感じたのはサポーターの存在。避難所にサポーターがいることで、率先して「動こう」「歩こう」「栄養を摂ろう」といった気持ちを促し、専門職がいなくても健康維持の担い手になるというところがあった。今回、健康づくり事業の中でサポーターの養成があるが、災害時にも大きな効果を発揮すると考えられる。ぜひ、こうした観点をスライドなどに少しでも追加していただき、有事の際にサポーターの力が発揮できるような視点も検討してほしい。

○事務局

本市では糖尿病予備軍の方が大変多いため、今年度は糖尿病予防に特に力を入れて取り組んでいきたいと考えている。また、三重大大学にご協力いただき、エビデンスに基づいた事業効果の検証を進める予定。他の事業についても、同じように検証を行うことが重要だと考えている。

さらに災害対応についても、健康フェスティバルも控えているため、いただいた貴重なご意見をこれから参考させていただきたい。

○会長

報告書にも記載されている通り、糖尿病の罹患率については長年にわたり松阪管内は三重県内の中でも高い水準を示しているが、いったい何故なのか、その具体的な原因については十分な検証が行われていないのではないかと。

○委員

原因についてしっかりと調査を行った上で、適切な施策を実施し、その効果を検証していくことが必要。難しいところはあるが、まずはその原因をきちんと含めたうえで進めていかなければならない。

○会長

糖尿病予備軍が多いということは我々の地区の1つの特徴であるので、その原因についてもそろそろ考えていくべきではないかと常々思っている。

縦割りではなく、高齢者支援課と連携した認知症対策や、教育委員会と連携した子どもの頃からの健康づくりについても考えていただきたい。

(14時45分終了)